

群 教 セ	E03 - 03
	平17.227集

# 自己の役割を理解し行動できる学級作りの工夫

## — SHRでのワークシート形式の 振り返りカードの活用を通して —

特別研修員 菊池 孝子 (市立伊勢崎高等学校)

### 《研究の概要》

本研究は、高校1年生を対象に、SHRで振り返りカードの活用を通して、自己理解を深め、学級の中で自己の役割を理解し、積極的に行動できる生徒の育成を目指した。活動の場として、個人、グループ、学級全体と生徒の参加形態が変化し連続して行われる「職場体験」「文化祭グループ別テーマの掲示物の作成」「文化祭の当日のクラス発表に向けた事前準備や当日の発表」の3つの取組のなかで自己の役割を理解し行動する活動を行った。

**キーワード** 【学級経営 高等学校 SHR 振り返りカード 自己の役割】

### I 主題設定の理由

本学級（高校1年生）は男子13名、女子28名、計41名の学級である。一人一人を見ると明るく素直であるが、全体的に指示待ちの生徒が多く、学校行事などにおいても積極的に行動できる生徒は数人である。

5月に行った進路希望アンケートでは46.5%の生徒が進路希望先について未定であると答えている。また、まだ将来の展望がもてず、「何となく高校に入学した」「高校生活でやりがいが見いだせない」という生徒が多く、高校生活における目的意識が高いとは言えない。このような生徒に対して、学級という集団生活を通して自己理解を深め、他者とかかわる中で自己の役割を理解する。そして、その役割を果たしていくことで、自分の個性を発揮しグループやクラスに貢献できるようになり、達成感や満足感を感じることができようと考えた。そこで、ふだんは連絡や報告事項だけになりやすいSHRを、生徒が自身の言動や生活の様子について、振り返りカードを活用して考える場とすれば、生徒自身が毎日の高校生活に意識を持ち、自己の役割を理解し、その役割を積極的に果たしていくことができるのではないかと考える。

本研究では、個人の活動の場として「職場体験」、グループの活動の場として「文化祭のグループ別テーマの掲示物の作成」、学級の活動の場として「文化祭当日のクラス発表に向けた事前準備や当日の発表」と、生徒の参加の形態が変化し

連続して行われる3つの活動場面を活用した。その3つの活動に関連するSHRにおいて、ワークシート形式の振り返りカードを活用することで、自己理解を深めるとともに、仲間と協力しながらグループや学級における自己の役割を理解し行動できるようになると考え、本主題を設定した。

### II 研究のねらい

「職場体験活動」「文化祭グループ別テーマの掲示物の作成」「文化祭当日のクラス発表に向けた事前準備や当日の発表」における3つの活動に関連するSHRでの振り返りカードの活用を通して、活動してきた結果やそれまでの流れをもとに自他を理解し、次の活動に生かしながら取り組むことにより、学級における自己の役割を理解し行動できる生徒が育成できることを実践を通して明らかにする。

### III 研究の見通し

- 1 職場体験において、事前にワークシートを使って自分なりの目標を明確にする。職場での活動やコミュニケーションについて、振り返りカードへの記入を通して、自己の能力や適性について理解を深めることができるであろう。
- 2 文化祭グループ別テーマの掲示物の作成に向け、グループで協力しながら一つの作品を作り上げる活動を通して、振り返りカードを活用す

ることでグループの中で自分の役割を理解し行動できるようになるだろう。

- 3 文化祭当日のクラス発表に向けた事前準備や当日の発表において、クラスの発表がより良いものになるよう、文化祭当日の活動における自己の役割を明確にする。そして、仲間と交流し合うことで、学級のための自己の役割を理解し行動できるようになるであろう。

#### IV 研究の内容

##### 1 基本的な考え方

###### (1) 「自己の役割を理解し行動できる」とは

「自己の役割を理解し」とは、グループや学級の活動で、協力しながら物事を成し遂げようとしていく過程において、一集団における自己の役割を考え、自己の個性を発揮できる場面を積極的に探すことである。また、「行動できる」とは、自己の役割に責任をもって取り組み、その役割を果たすことである。生徒一人一人が自分自身を深く理解し、集団における自己の役割を自覚し行動することを通して、集団における言動に自信を持ち、より積極的に行動できるようになると考えた。

###### (2) 「SHRでのワークシート形式の振り返りカードの活用」とは

これまでのSHRは連絡や報告事項だけになりやすかったため、生徒の人間的成長を促す場として十分機能させたいと考えた。そこで、SHRを生徒が自身の言動や生活の在り方を考える場として活用する。その方法として、SHRで振り返りカードを活用することで、活動の過程における努力の様子や自他の役割に目を向けることができ、新たな目標や課題がもてるようになると考えた。

ワークシート形式の振り返りカードとは、「職場体験活動」「文化祭グループ別テーマの掲示物の作成」「文化祭当日のクラス発表に向けた事前準備や当日の発表」の3つの活動において、学級共通の振り返り項目と各自が決めた項目を1～2週間、SHRを活用し記入していくものである。記入内容は振り返りの項目以外に、活動に取り組む際の自身の目標や自己の役割、その実施状況及び振り返りの感想などである。

①職場体験で自分の能力や適性に気付き、自分をより深く理解する。②この職場体験での気付きを学級活動に生かしていくために、文化祭グルー

プ別テーマの掲示作成を行う。更に、③文化祭当日のクラス発表に向けた事前準備や当日の発表の活動を考えた。これらの活動で自分の能力や適性を生かしながら、自分の役割を理解し行動することで、学級における自分の能力や適性に気付き、さらに積極的に行動できると考えた。

###### (ア) 職場体験

生徒は各事業所との事前打合せをもとに、ワークシート形式の振り返りカードを作成し、「何を学んでくるの？(目標)」「前もってやるべきことは？(心構え)」などを明らかにする。それらをもとに振り返りを行う活動を通して、将来に向けた職業観や勤労観を培うとともに自己理解を深め、自分の能力や適性を学級での活動に生かしていくことができると考えた。

###### (イ) 文化祭グループ別テーマの掲示作成

9月下旬の2週間の活動とし、振り返りカードも同期間で活用する。ここでの指導の工夫は、事前事後で同じ質問項目を記入することにより、グループにおける自己の役割を理解し、行動することについて、自身の意識の変化を自分で読み取れるようにしたことである。これにより生徒自身がグループ内での自己の役割について深く考え理解することになるであろうと考えた。

###### (ウ) 文化祭当日のクラス発表に向けた事前準備や当日の発表

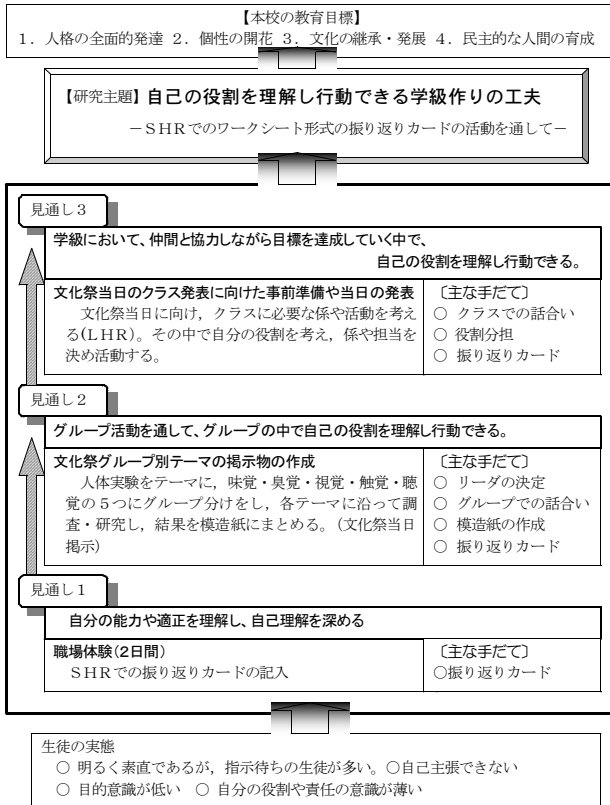
文化祭当日発表に向け、学級全体として取り組む活動である。LHRで学級に必要な係や役割を話し合い、学級にかかわる自己の役割を明確にし、ワークシート形式の振り返りカードを作成する。

振り返りカードは、文化祭グループ別テーマの掲示物の作成のときと同様に、事前事後で同じ質問項目を記入することにより、自分自身が学級における自己の役割を理解し行動することについて、自己の意識の変化を自分で読み取れるようにする。これにより生徒自身が学級内での自己の役割についてより深く考え理解することになると考えた。

###### (3) 全体構想図

全体構想を考えるにあたっては、以下の点に配慮した。①見通し1～3に示すように、生徒の意識の高まりや、振り返る力を養う。②全体を通して、主な手だてとして振り返りカードを活用する。③この研究を通して、学校の教育目標の達成に向けた生徒の育成に努める。

## 資料1 全体構想図



## 2 実践の概要及び結果と考察

検証に当たっては、学級の活動の様子、振り返りカードの記入内容、アンケートの結果をもとに行なった。

抽出生徒A子は、まじめであるが発言などは少なく、あまり積極的にクラスにかかわろうとしない。日常生活で、よく話をしたりともに行動したりする友人は少ない。職場体験では保育園を選択している。文化祭グループ別テーマの掲示物の作成での事前アンケートにおいては「自分の役割を見つけられそうですか」という問いに対して、「あまり見つけられそうにない」と答えた。

### (1) 自己の能力や適性について理解を深めることができたか。(見通し1)

#### ア 実践の概要

体験を希望する職場を職種別に第3希望まで調査し、その結果をもとに販売、福祉、看護、保育園・幼稚園、図書館、美容、郵便局、スポーツ、自動車の職種別に68カ所の事業所で、1名から8名の人数で2日間の職場体験を行った。

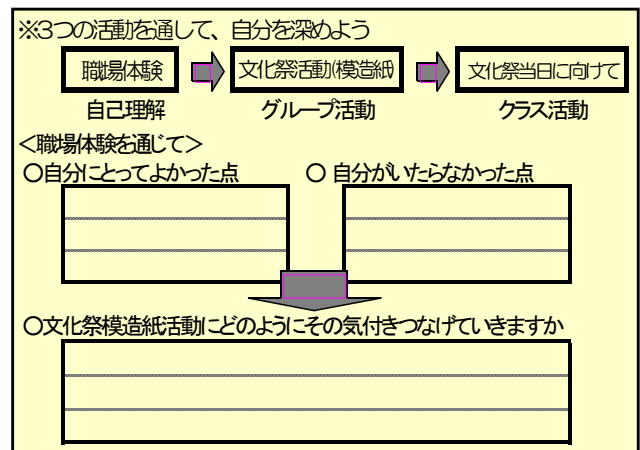
事前に、職場体験の課題や目標を明確にしたワークシートを各自が作成した。ワークシートにおいては、「何を学んでくるの?」「基本的なことはしっかりできた?」「前もってやるべきこと

は?」の3つの項目に記入することで、生徒が目的意識を持って体験に参加できるようにし、この内容を振り返りカードにも活用した。

教師は事業所を巡回し、生徒の様子を観察したり、事業所から生徒の様子聞き取りすることで、指導に生かした。

振り返りカードに「自分にとってよかった点」「自分がいたらなかった点」「実習前の自分と変化があった点」という項目を記述することで、自己の能力や適性といった理解を深めることができたようにした。また、職場体験学習で学んだ事や自分の変化を次の文化祭グループ別テーマの掲示発表に生かせるよう「文化祭グループ別テーマの掲示作成にどのようにその気づきをつなげていきますか」という項目を設け、中期的にねらいを意識した記述ができるようにした(資料2)。

## 資料2 ワークシートを生かした振り返りカード①



### イ 結果と考察

職場体験前のワークシートの記入において、目的意識を持たせるための「何を学んでくるの?」という質問項目(資料3)では、全員が2つ以上の目的を記述していた。

## 資料3 ワークシートを生かした振り返りカード②

※自己評価し、実習終了後感想を書きなさい

\*目標は達成できた?

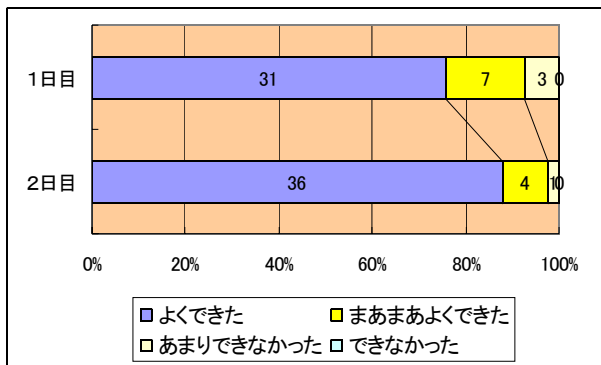
何を学んでくるの?	9/14(水)	9/15(木)	
①	4 3 2 1	4 3 2 1	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
②	4 3 2 1	4 3 2 1	
①	4 3 2 1	4 3 2 1	

(4..よくできた、3..まあまあよくできた、  
2..あまりできなかった、1..できなかった)

内容は体験する職業によって様々であるが、「コミュニケーション(職員間、接客、園児との接し方など)」(22名)、「仕事の内容や働くことの大切さ・大変さ」(18名)にかかわるものが共通していた。これらの目標から、自分の能力や適性に関して自分なりに理解を深めようとする意識が見られる。

また、資料4から読み取れるように1日目から目標を意識して取り組めた生徒が7割以上いる。多少の心のゆとりからか、2日目になるとさらに目標を意識できるようになってきていた。このことから事前にワークシートを記入させることは、目標を持って活動に取り組むことに効果的であったことが分かる。

資料4 目的を持って取り組めたか



「実習前の自分と変化があった点」については、あまり変化がなかったという生徒は14%、残りの86%の生徒は何かしら変化を感じている。職場体験と事前事後のワークシートの作成や記入を通して、ふだんの生活以上に自分自身について深く見つけ、自分の変化を感じているものと考えられる。

資料5の変化があった点の記述を分析してみると、体験した職業に対して、「自分でやっていけそうか」「自分が好きになれるそうか」などの記述が多いことがわかった。このことから自己の能力や適性について意識して考え、理解しようとしている姿勢が読み取れる。特に、「自分に向いていないことに気付いた。なりたい職業を見つめ直す」という記述からは、自分の第1希望である保育士の職業を体験した結果の気付きであり、「なりたい職業を見つめなおす」という記述から、その生徒自身にとって様々な職業に目を向け自分の適性や能力を考えていくきっかけになったと読み取れる。

資料5 実習前の自分と変化があった点

- 自分の今後の課題を沢山見つけることができた
- 将来のことをより考えるようになった
- 人のために何かをしてあげたいと思った
- 向いていないと気づいた。なりたい職業を見つめ直す
- 子供が好きというだけでなく、もっと子供について知らなくてはいけない
- 向いているといわれ自信がついた
- 社会に出たら失敗ができない
- きちんと人とかかわることの大切さ
- 仕事をすることの喜び

資料6は抽出生徒A子の振り返りカードへの記述である。「向いているといわれ自信がついた」と記述している。担任が巡回したときのA子の様子は、学校とは違った様子が観察でき、とても楽しそうに体験活動に取り組んでいた。保育園の先生の話では、園児に積極的に関わり、熱意をもって体験しているということであった。保育園の先生から向いていると言われたことが、本人にとって大きな自信につながっていると思われる。

また、「人とかかわることの大切さと楽しさを知ることができた」という記述から、人間関係の大切さを学ぶことができた。また、体験活動後のA子の様子を見ると、以前より積極的にクラスにかかわろうとする姿勢が見られるようになった。

このことから自己の能力や適性といった理解を深めることができたと考える。

資料6 A子の感想

・向いているといわれ自信がついた。  
 ・人と関わる事の大切さと楽しさを知ることが出来た。  
 ・先生や親の大変さがあった。

(2) グループの中で自分の役割を理解し行動できるようになったか。(見通し2)

ア 実践の概要

文化祭のグループ別テーマの掲示物の作成は、各クラスでテーマを決め、そのテーマに沿って調査や分析を行い模造紙にまとめる活動である。

本学級では、“人体実験”をテーマに、味覚・臭覚・視覚・触覚・聴覚の5つに追求するグループに分け、調査や分析の結果を各グループごとに

模造紙にまとめた。グループの構成は、7人～9人を一組とした男女混合のグループである。グループごとに、リーダーが中心となって調査する内容を話し合った。その話し合いの内容をもとに、役割分担を決め、グループで協力できるような環境をつくった。9月下旬の2週間の昼休みや放課後を使い作品を仕上げていった。また、同期間、振り返りカードを記入し、自分自身の毎日のグループに対する役割やかかわりを確認できるようにした。ここで作成した模造紙は、文化祭当日に掲示した。

ワークシート形式の振り返りカードの内容は、担任が定めた共通項目と各生徒が自分の活動にあわせて重点を置き振り返る項目である(資料7)。

### 資料7 ワークシートを生かした振り返りカード③

(4…よくできた、3…まあまあよくできた、  
2…あまりできなかった、1…できなかった)

<班への関わり>	9/20	9/21	9/22	9/26	9/27	9/28	9/29
①自分の役割を見つけたことができた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
②積極的に参加できた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
③自分の意見を言うことができた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
④他のメンバーの意見を聞くことができた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑤	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑥	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
⑦今日のMVP							

—主に自分の役割はどんな事?—

グループに対する生徒自身の意識の変化を自分自身でとらえることができるよう、グループ活動の事前事後に共通項目で「自分の役割を見付けられそうですか」「班がまとまるよう努力できますか」「自分の意見を言うことができますか」「他のメンバーの意見を聞くことができますか」の4つの問いについて考え、記述させた。活動終了後、グループのメンバーのよいところと次の文化祭当日の発表に向け自己の役割を考え記入することにより、次の活動に生かしていけるようにした。

#### イ 結果と考察

見通し1で職場体験学習で学んだことや自分の変化・成長を文化祭グループ別テーマの掲示物の作成に生かせるように、各自の意識や取組の姿勢などについてまとめさせた。記述内容を分析すると、「人とかかわり」「自分の能力」に分けることができた(資料8)。

### 資料8 職場体験の気づきを文化祭グループ別テーマの掲示発表にどのように生かしていくか

- <人とかかわり>
- いろいろな意見を出し合い、班員のみんなが納得できるようにする
  - 相手の気持ちを考え行動する
  - 協力し合い、積極的に自分の意見を言えるようにする
  - 人とかかわりを大切にする
  - 一致団結し、盛り上げる
- <自分の能力>
- 自分の仕事を最後までやり遂げることを学んだので、それを生かしていきたい
  - 自分の役割を見付け行動することが大切
  - 作業を迅速丁寧にする

抽出生徒A子は「人とかかわりを大切にし、協力して掲示発表に臨む」と記述し、職場体験での「人とかかわることの大切さと楽しさを知ることができた」(資料6)という気づきを生かしていこうとする姿勢が見られた。

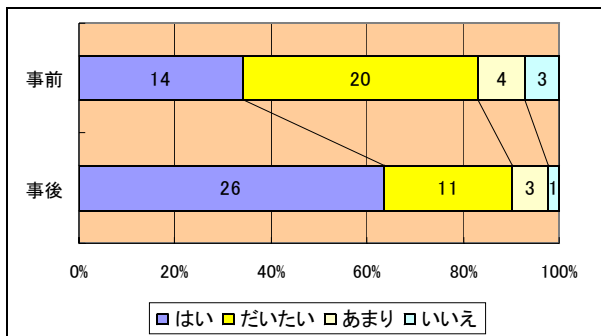
資料9から、事前の「グループにおける自分の役割を見付けられそうですか」の項目について、「はい、だいたい」と答えている生徒が83%であるため、多くの生徒が何か役割を見付け取り組めると考えている。事後では「はい、だいたい」と答えている生徒が90%となった。自分の役割として「資料収集」「模造紙作成」「自分の特技を生かした」といった個人的な意見ばかりでなく、「班長として班をまとめた」「意見を積極的に出した」「楽しくできるよう気を配った」のようにグループをまとめようとする役割も見付けて取り組んでいた。また、「最初は班の中でぎこちなかったが、協力し合っているうちに自分の役割を見付けよくできた」「意見を言い合っていくうちに皆のよいところがみえたり、それぞれの役割が分担できてきた」のように活動を通して自己の役割を見付けられた生徒もいた。グループでリーダーを決める際も、すべてのグループが立候補で決まり、積極的に班に関わっていこうとする姿勢が見えた。

事後のアンケートで、自分の役割を見付けられなかったと答えた4人の生徒は「1つの役割だけで、他の役割を見付けられなかった」「けんかをしてしまい、自分には協調性が必要だと思った」「部活で放課後残れず班員に迷惑を掛けた」との意見があがった。これは自己の役割を見付けようとする意識はあるものの結果として自己の役割を

見付けられなかったと考える生徒である。

### 資料9 事前・事後アンケート結果

自分の役割を見つけることができたか



生徒の取組の様子を見ても、リーダーを中心によく協力できており、話し合いながら作業を進めることができていた。また、「作品は満足できましたか」という問には、“はい”が73%、“だいたい”が27%の結果になっている。

以上のことから、グループの中で自己の役割を理解し行動できるようになったと考える。

抽出生徒A子の変容は、自分の役割を「作業が少しでもスムーズにいくように、模造紙の下書きを頑張った」と記述している。リーダーと一緒に意見を積極的に出し、いつも放課後遅くまで残り作業を頑張っていた。また、振り返りカードから「みんなで協力することの大切さを知った」「少しでも自分にできることを見つけられた」と記述していた。このことから、A子はグループの中で自己の役割を理解し行動できるようになったと考えられる。

### (3) 学級のための自己の役割を理解し行動できるようになるであろう。(見通し3)

#### ア 実践の概要

文化祭の当日、“人体実験”をテーマに、来校者にゲームやクイズに参加してもらう活動である。ゲームやクイズの内容は、見通し2でまとめた模造紙の内容を参考に考えた。来校者にいかに楽しんでもらえるかということを目標に、文化祭実行委員会を中心にクラス全員で文化祭当日のクラスに必要な係や役割について話し合った。ここでは、学級における自分の役割を明確にする。なお文化部に入部しているなどの理由で、文化祭当日クラスにかかわれない生徒もいるが、そのような生徒も準備期間に自分自身のクラスにおける役割を考え、学級にかかわる活動をするように話し合

でまとまった。

10月中旬の1週間でクラス発表を仕上げた。また、同期間で振り返りカードを記入し、自分自身の毎日の学級における役割やかかわりを確認できるようにした。担任としては、生徒の役割や目標をさらによくするためにはどうすればよいか熟考できるように問いかけたり、助言したりした。学級にかかわる活動の事前と事後で「クラスにおける自分の役割を見つけることができる(た)か」「来校者に楽しんでもらえるよう努力できる(た)か」「クラスかまとまるよう努力できる(た)か」で各自記述し、学級に対しての自分の意識の変化を見つめさせた。

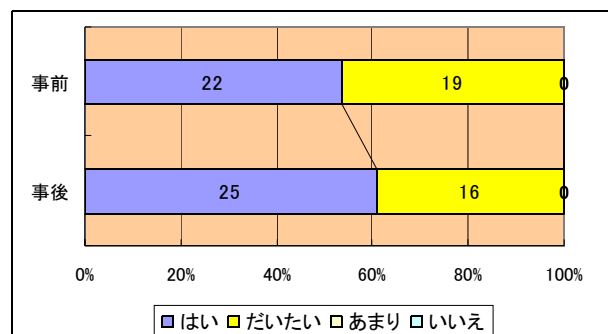
#### イ 結果と考察

文化祭グループ別テーマの掲示発表の振り返りをもとに、文化祭当日の発表に向け自己の役割を考えるワークシートの記述では「クラスが1つにまとまり文化祭を成功できるように自分にできることは何でもやる」「クラスの人の意見にしっかりと耳を傾けたい」などのクラスに関わる記述が64%であり、クラスでまとまろうとする姿勢が読み取れた。そのほかの記述では、自分の能力を生かそうとする意見がほとんどであった。

文化祭当日のクラスに必要な係や活動についての話し合いでは、活発に意見が出され、役割分担を決めることができた。このことから「クラスにおける自分の役割を見付けることができる(た)か」の項目では、事前事後ともに“はい、だいたい”とすべての生徒が答えている。(資料10)。

### 資料10 事前・事後アンケート結果

クラスにおける自分の役割を理解できる(た)か



「自分の役割を最後まで責任をもって果たすことができたか」の問いには93%の生徒ができたと答えている。できなかった7%の生徒の理由は「担当の呼び込みが恥ずかしく、声が小さかった」「交替時間に遅れたため」と記述しており、意識はあ

ったができなかった自分を正直にとらえようとしていた。

抽出生徒A子は、振り返りカードに「自分にできることを積極的に見付け取り組めた」「来校者に対して、わかりやすいように大きな声で積極的に説明できた」と記述している。準備や当日の様子を見ても、以前より協調性が見られるようになり、みんなで協力できるような雰囲気作りを感じる言動が見られた。また、進んで自己の役割を見つけ、来校者に楽しんでもらえるよう接し方に工夫が見られた。このことから、クラスにおいて自己の役割を見つけ、責任を持って行うことができたと考えられる。また、振り返りカードに「前よりみんなと協力して物事に取り組むことができるようになった」と記述しているところに、A子の成長を感じることができる。

クラス全体に「振り返りカードを記入することによって、気づきや、変化がありましたか」という意識調査をしたところ、「自己評価がよくなっていくことがうれしい」「きちんと自分が見つめられた」など自分に関することが73%、「みんなの良いところにたくさん気付けた」「クラスがまとまってきた」など人とかかわりに関することが20%となった。資料11は振り返りカードに関する意識調査の記述である。

#### 資料11 振り返りカードの記入を通しての気づき

<自分に関すること>

- きちんと自分のできたか見つめられるようになった
- 毎日自己評価することで自分の役割を見付けられた
- 意外と自分は行動していると思った
- 自分の意見をはっきり言えないことが何回かあった
- 自己評価がよくなっていくことがうれしかった
- 4(よくできた)が多く付けられたと思う。楽しめた
- 人の意見が聞けると言うことがわかった

<人とかかわり>

- みんな頑張っていたので、毎日のMVPを決めるのが大変だった
- みんなの良いところにたくさん気付けた
- 日がたつにつれ協力が深まり自分の役割をはたせた
- クラスがまとまっていく様子がわかった

初めは受け身な態度で振り返りカードの記入に取り組んでいた生徒が多く見られたが、回数を重ねていくうちに積極的に記入する姿が見られるよ

うになった。SHRで振り返りカードの項目を意図をもって作らせ、その項目に沿って活動し、振り返ることにより、自他の役割に目を向けることができたり、自分の成長を感じながら新たな目標や課題が持てるようになっていたりすることに有効であると考えられる。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

自分の役割を理解し行動するという意識しながら取り組むことで、自分が行うべき目標が明確になり、グループやクラスという集団において自分のよさを発揮できる。また、振り返りカードの記入を通して、自分の役割を確認し修正しながら活動していくことで自己の変容に気づき、喜びを感じる生徒が多いことがわかった。

文化祭終了後の振り返りカードの記述に「クラスで団結力が出てきた」「積極的に意見が言えるようになった」「より仲良くなり協力できた」などの学級に関する記述が90%であり、自分の役割を理解し行動していくことが、他者の役割を理解することにもつながることがわかった。

### 2 今後の課題

ワークシート形式の振り返りカードの活用方法として、教師が意図をもって事前にカードとその振り返り項目を指導し、作成させる。その項目に沿って記入していくことによって、自己の役割や課題に気づくことができる。実際に活動を振り返る過程で、生徒が新たに発見した自分の課題をカードに書き加え、振り返り項目を作り活用できるような工夫ができれば、さらに深く自分のよさに気づき、そのよさを発揮できたのではないかと考える。

また、カードを記入することで、自分で気付いた自己の役割や課題をグループや学級に貢献していくことはできたが、活動の中で記入内容をグループや学級で共有できるような指導の工夫があれば、自分だけでは気づくことのできない自己の役割や課題にを見つけることができたと考える。

<参考文献>

- ・谷島 昭 著 『文化祭実施マニュアル』  
学事出版  
(担当指導主事 関口 満)